

ICTを活用したスマートスクール 実証事業研究大会 取組説明



西条市立壬生川小学校

本事業の概要

本事業は、当市が総務省「スマートスクール・プラットフォーム実証事業」および文部科学省「次世代学校支援モデル構築事業」の委託を受け、平成29年度から「教育の質の向上」を目指し取り組んでいるものになります。

実証地域



【西条市における実証校】

- ・ 西条市立壬生川小学校
- ・ 西条市立神戸小学校
- ・ 西条市立西条東中学校

ロードマップ



スマートスクール実証事業とは？

校務系のデータと学習系のデータをつなげ、学びを可視化することで、教育の質の向上を目指す実証事業です。

【校務系システム】

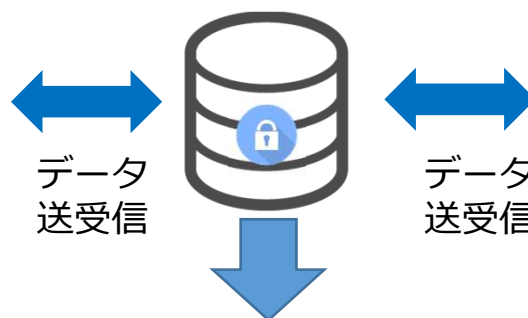
～校務の質の向上と負担軽減～

- ・児童生徒名簿情報
- ・教職員情報
- ・生徒指導情報
- ・成績情報
- ・出欠情報



中間サーバ

～データ連携の標準化～



【学習系システム】

～新たな学びで資質・能力を育成～

- ・授業支援システム
- ・協働学習支援ツール
- ・デジタルドリルシステム
- ・振り返りデータ
- ・活用ログ



スマートスクール・プラットフォーム “カルテ”への一元化



西条市“カルテ”のイメージ図

西条市カルテとは？

西条市のデータ可視化システム“カルテ”は、校務系データと学習系データを掛け合わせたクロス分析を中心に置き、授業・指導改善に必要なデータをシームレスに閲覧することができるものです。

西条市カルテの画面イメージ

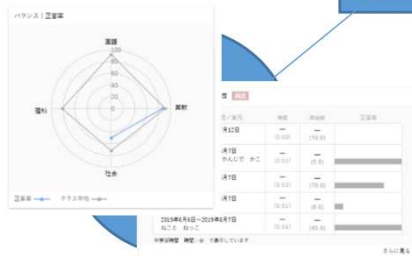
校務系



学力テストの詳細

学習系

ドリルワーク



ドリル教材の取組結果

ホーム画面

ダイジェスト | 総合

総合 (クラス平均)

学力習熟度/得点率

↓ C2 53.7%

(A2 / 76.8%)

学習系

行動・意欲

A1 3.1

(S3 / 3.3)

Dカテゴリ

学力習熟度と行動・意欲ともにクラスの中央値を下回っています。

国語 学力習熟度/得点率 (クラス平均)

↓ C1 57.7%

(A2 / 77.7%)

社会 学力習熟度/得点率 (クラス平均)

A2 77.1%

(A1 / 87.1%)

算数 学力習熟度/得点率 (クラス平均)

校務系 % (A3 / 71.7%)

理科 学力習熟度/得点率 (クラス平均)

↓ C2 55.4%

(A2 / 76.2%)

校務系

日付	記入者	コメント
2018年9月3日	国語 関 雄介	主人公の心情について、文中の具体的な表現を根拠として周囲に説明した。
2018年10月10日	その他 二階 奈美子	校外学習で周囲の子どもを積極的にリードする姿が見られた。
2018年12月2日	算数 関 雄介	他の人の意見を参考に、自分で複数の解法をノートに書き出し、クラス全員の前で発表した。

児童・生徒の日々の様子の記録

学習系

主体力	学習行動・意欲 (アンケート結果)	2018年9月5日	2018年9月5日	2018年9月5日
1	主体的に学習に取り組む姿勢が、授業中に発揮されている。	21.0%	48.6%	27%
2	自分の意見や考えを、積極的に発表している。	10.0%	19.5%	25.7%
3	主体的に学習に取り組む姿勢が、授業中に発揮されている。	32.4%	40.5%	24.3%
4	主体的に学習に取り組む姿勢が、授業中に発揮されている。	54.1%	40.5%	14.1%

学習行動・意欲の詳細



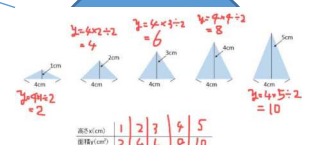
他レイヤー(学校カルテ/学級カルテ/児童生徒カルテなど)への移行※画像は児童カルテ

校務系

氏名
2 秋田 美里
3 岩瀬 浩二
6 内野 剛
24 菅 良助
25 杉山 了
32 関根 美紀
35 田島 由美

名簿情報

学習系

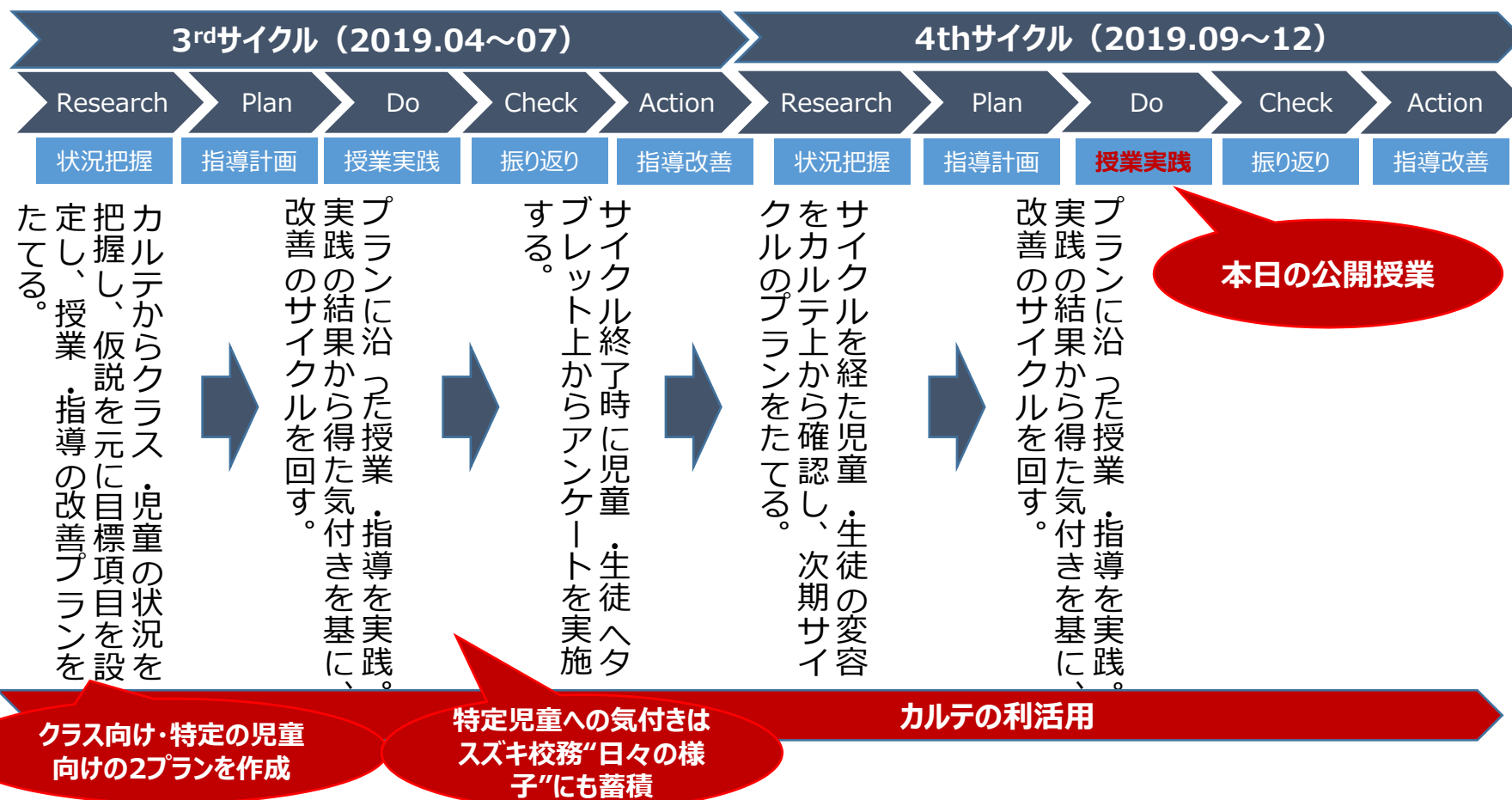


学習成果物

当市の取組概要の紹介

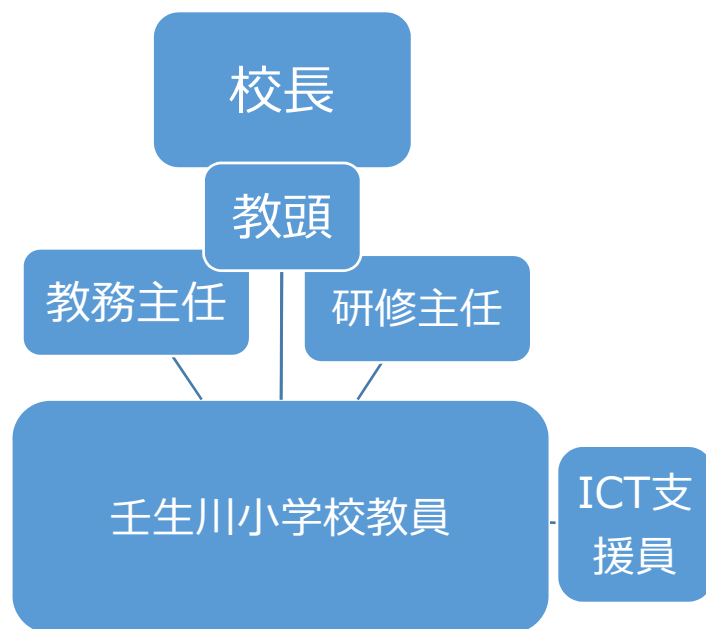
カルテの利活用を中心に、教育の質の向上に向けたRPDCAサイクルを回しています。
また、このサイクルから発生するデータ連携・活用のベストプラクティスやノウハウの蓄積を行っています。

今年度RPDCAサイクルの取組状況



壬生川小学校での取組概要の紹介

取組体制



スマートスクール実証事業における学校の目標

様々なデータを活用し、クラス、個人への見取りを行う。

取組みのポイント

- ・ 学校全体の取組にし、全員参加で共有が図れる実践事例の創出
- ・ クラスだけでなく、個人にフォーカスした授業、指導改善の研究
- ・ ICT支援員と共に取り組む授業づくりとICTの効果的な活用

苦労したところ

- ・ 限られた時間の中で多くの実践を重ねられるよう、諸々の工夫をした。

壬生川小学校での取組事例の紹介

校内研修資料

オリジナルの資料を数多く作成し、教員全員の理解が深まるよう工夫を重ねた。



1. 来年度、必ず先生方に実践していただきたいこと



2. スマートスクール実証事業のゴールは「カルテの作成と活用」です

スマートスクールのひとつのキーワードとして「エビデンス（根拠）」が挙げられます。指導カルテは、今までは先生方の経験や勘に頼っていた日々の授業実践や生徒指導について、カルテで集約されたデータを可視化することで、先生方がエビデンス（根拠）に基づいた児童への個別指導や学級経営、授業計画を効果的かつ効率的に活用していくためのものです。また、学習指導や生徒指導等の質の向上も期待されます。さらに、指導事例を蓄積していくことで、指導のノウハウを新しい先生方にも伝承することが可能になります。

そのためには、先生方がS-VDIと闘いながらも、様々なデータを蓄積していただかなければなりません！そして、指導カルテからエビデンス（根拠）に基づく、児童への指導のアプローチを検討し、個に応じた指導を実践していただきたいと思います。

3. PDCAサイクルで実践していきましょう！

Plan（計画）…授業計画・学級経営・学校経営
Do（実行）…タブレットPC・ミライシード
スズキ校務の活用
Check（評価）…指導カルテの見取り
Action（改善）…個に応じた指導・授業改善



4. まだまだ先生方の意見が必要です！

ミライムのオリジナルメニューにある「気付きアンケート」から要望・意見をあげてください。例えば、「カルテを〇〇してほしい」「ミライシードやスズキ校務にこんな機能が欲しい」等、様々な意見をお願いします。

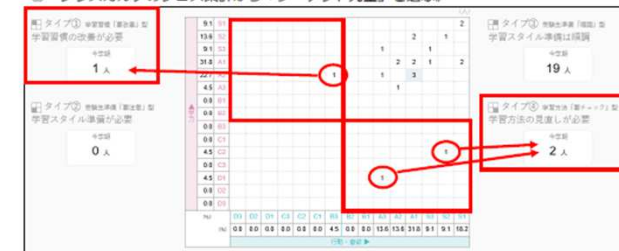


西条市立壬生川小学校 カルテの見取り案

＜個別カルテの見取り案＞

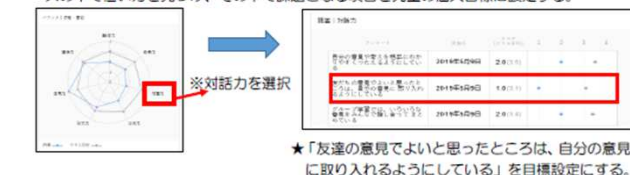
① ターゲット児童の「児童カルテ」→「行動・意欲」から、改善が必要な7つのカテゴリの1項目を選び、さらにアンケート内容から個別の手立てを考え、授業改善の方法を考える。

① クラスカルテのクロス集計から「ターゲット児童」を選ぶ。



② 「学習方法の見直しが必要」な児童2名と「学習習慣の改善が必要」な児童1名がいることが分かった。

③ 3名の児童の課題を「児童カルテ」の「♥行動・意欲」から、7つのカテゴリ・バランスの中で低い力を見つけ、その中で課題となる項目を児童の個人目標に設定する。



④ ターゲット児童が授業の中で、友達の良いと思った意見を自分に取り入れるようにするための具体的手立てを考え、授業改善を図る。

★目標に対する授業改善のポイント

•

•

•

一覧」から、クラスの実態とアンケート1～3項目選び、クラス全体で行

一覧」を開く。



項目を1～3項目選ぶ。



！～を使ってまとめたり、発表したい項目でも自由とする。）

！～観点を絞る。
そり、それらを聞いて意見を述べ
改善を行いたい！）

！～合わせ、授業改善を図る。

「個別カルテ」と「クラスカルテ」の間で、授業改善を図るようにしたい！

本日の授業者紹介



3年竹組 一色 司 教諭

教科：算数科

単元：重さ

ご覧頂きたいポイント：

○授業支援ソフトの効果的な利活用

○対話による課題解決と、理由付けした発表する。



6年竹組 田中 慎也 教諭

教科：社会

単元：長く続いた戦争と人々の暮らし

ご覧頂きたいポイント：

○授業支援ソフト効果的な利活用

○自分の意見や考えを短い言葉でまとめ、発表する。

授業者のこれまでの取組紹介 その1



3年竹組 一色 司 教諭

教 科：算数科

単 元：重さ

ご覧頂きたいポイント：

○授業支援ソフトの効果的な利活用

○対話による課題解決と、理由付けした発表する。

取組経緯 状況把握・指導計画

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

状況把握

指導計画

1. カルテを確認する

カルテの確認か所

■ ホーム(クロス分析) ■ 成績情報 ■ 行動・意欲集計 ■
アンケート項目一覧



2. カルテ確認からの「気付き」

- ・ 授業に消極的な児童や配慮を要する児童が値が低い傾向にある反面、学力が低い児童が高い値にいる傾向も伺える。
- ・ 相手に気持ちを伝えることが苦手な傾向があり、話し方や気持ちの伝え方、説明の仕方等を身に付けさせる必要がある。



3. 「気付き」から実践に向けた仮説を立てる

- ・ タブレットPCを効果的に活用すれば、主体的に学習に取り組む児童が育つのではないか。
- ・ 話型や話合いの基本を身に付けさせ、ICT機器を活用することで、分かりやすく説明する力が育つのではないか。

4. 仮説に基づいた目標設定（伸ばしたい力）

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している

【選択理由】

答えのみを発表する児童は多いが、理由を問うと一気に消極的になる。
自己表現力を高めていきたい。

➡ 改善ポイント①

6 タブレットやコンピュータの新しいきのうや使い方を、ためしたりくふうしたりしている。

【選択理由】

ICT活用能力を育て、主体的に学ぶことができるようにする。

17 タブレットやコンピュータを使って、じょうほうを集めたり 自分の考えを発表したりしている。

【選択理由】

ICT表現力を高めたり、個人差を補えるようにしたりしながら、主体的に学ぶことができるようにしたい。

➡ 改善ポイント②

取組経緯 授業実践・振り返り

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

授業実践

振り返り

5. 授業実践【改善ポイント】

【目標に対する改善ポイント①②】

- ・考えの根拠を明確にさせるために、ワークシートを工夫する。
- ・ICTを効率的に活用して、子どもの学習意識を途切れないようにする。



6. 授業実践【気づき】

【改善ポイントに対する気づき】

- ・学習規律や学習の基礎が身に付けることが重要である。
- ・分からない児童が主体的に取り組める支援が必要である。



振り返り【カルテ確認ポイント】

カルテの確認か所

■ ホーム(クロス分析) ■ 成績情報 ■ 行動・意欲集計 ■ アンケート項目一覧



振り返り【サイクルを通じた気づきポイント】

- ・全体的に評価が悪くなっている。
- ・できていないと回答している児童は、概ね教師側の見取りと合っている。
- ・年度初めの評価より、信ぴょう性が高くなった。



振り返り【仮説に対する実践結果】

【仮説に対する実践結果、気付いたことなど】

- ・話型や話し合い練習を重ねることで、中心になる児童が育ってきた。
今後は、掲示物等工夫してより多くの児童が話す力を高められるようにしていく。
- ・ICT機器は児童の学習意欲を容易に高めることができる。

取組経緯 指導改善～次サイクル指導計画



次期サイクルでの目標【クラス】

2 自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由も説明している

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

・話型指導を行い、上手にできた児童を称揚しながらクラスに広めていった。自分の意見の根拠を考えるようになったが、言葉での説明が難しく戸惑う児童がいる。ICT機器を活用して説明させることで、言葉不足を補えるようにしていく。

6 タブレットやコンピュータの新しいきのうや使い方を、ためしたりくふうしたりしている。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

・タブレットやコンピュータの操作に慣れ始め、手際よくまとめられる児童が増えてきた。手書き入力ができるようになると、活用幅がぐっと広がってくる。使い方に慣れさせ、文章入力も練習していきたい。

17 タブレットやコンピュータを使って、じょうほうを集めたり自分の考えを発表したりしている。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

・現在使用しているソフトは手書き機能が使えないため、3年生がインターネットを通じて情報を集めるのは難しい。自分の考えを発表することに重点をおいていく。

➡ 授業デザインへ反映

次期サイクルでの目標【個人】

■ 児童A 主体力：自分の意見を言うときは、なぜそう思う【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

算数科に対する苦手意識があり、自信がもてない。答えは分かるが理由を説明できなかった。教師との対話等で本人の考えを引き出すようにした。友達の説明を繰り返すなど、しっかり聞いて表現させることで力を付けていきたい。
(1.0→2.0)

■ 児童B 創造力：タブレットやコンピュータを使って、じょうほうを集めたり自分の考えを発表したりしている。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

グループ学習では、代表でタブレットをまとめる役をもらった。友達の意見を聞いて、タブレットを活用してまとめさせることで主体的に取り組めるようにした。今後もこのような経験を積み重ね、自分一人でも考えをまとめられるようにしていく。
(2.0→4.0)

■ 児童C 成長力：タブレットやコンピュータの新しいきのうや使い方を、ためしたりくふうしたりしている。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

落ち着いて授業を受けているが、意見を伝えたり話合いに参加したりすることが難しい。タブレット等を活用して、学習に意欲的に取り組めるように様々な操作に慣れさせていく。(未実施→1.0)

本日の授業デザイン

3年 竹組	教科 等	単元 名	重さ	8/8	壬生川小学校 一色 司
----------	---------	---------	----	-----	----------------

★ 単元のねらい

重さの普遍単位g、kgについて理解し、測定することができる。

☆ 本時のねらい

上皿天秤のつり合いと対応させて、加法や減法によっていろいろな重さを考えることができる。

○「学びあい学習」におけるICT活用のポイント

- ・ ICT機器を活用して課題解決意欲を高める。
- ・ タブレットPCと電子黒板を活用して意見を効率よく共有して思考を促す。

●「学びあい学習」のポイント

- ・ 全ての子どもが、自分の意見や疑問点をもってグループでの話合いに参加する。
- ・ 量り方を友達に説明したり人の考えを聞いたりすることで自分の考えを深められるようにする。

◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）

②主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由もせつ明している」

⑩活用力「タブレットやコンピュータを使って、じょうほうを集めたり自分の考えを発表したりしている」

考えの根拠を基にして自分の意見を伝えられる子どもは少なく、発表、話合い活動においても消極的な傾向がある。考えがまとまらなかったり、どのように説明したらよいか分からなかったりすることが考えられる。話型指導やICT機器を活用して自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることで、学びを深めさせていきたい。

展開	時間	学習活動の流れ・予想される子どもの反応（○）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	8分	1 前時の復習 ○「単位を合わせてから計算しよう。」 2 本時の学習問題を確認する。 ○「900gと100gで1kgが量れるよ。」 ○「何種類量れるのかな。」	○ 前時の学習を想起し、本時の課題解決につなげる。 ◎ 本時の課題を焦点化するために、問題を視覚化したりペアで確認したりする。
		学習問題 はかりと900g、300g、100gのおもりを使って、何gの重さがはかれるか考えよう。	
追究	30分	3 自分で考えをまとめる。 ○「おもりを二つ使えば、違う重さを量れる。」 ○「たくさん量れるね。」 ○「800gは量れないのかな。」 ○「どうしても200gは無理かな。」 ○「計算で求められるよ。」 4 グループで意見を発表する。 ○「なるほど。そういう量り方があったね。」 ○「左に900gを置いて、右に300gを置くと、600gも量れるよ。」 ○「すごい。この方法で他の重さも量れるよ。」 ○「全部探してみよう。」 5 全体で共有する。 ○「そうか。右と左に置いてもいいんだ。」 ○「200gはそうやって量ればいいんだ。」 ○「いろんな量り方があっておもしろいね。」	○ 効率よく全体の意見をまとめられるように、授業支援ソフトを活用する。 ● 意見を伝えたいという気持ちを高めるために、自力解決を支援する。 ◎ 解決を悩んでいるグループの意見や課題解決につながる考え等を教師が全体につなげ、「学びあい学習」を活性化させる。 ◎ グループの意見を全体で共有することで、多様な考えを引き出したり、考えを深めさせたりする。
解決	7分	6 本時のまとめを考える。 ゴール 100gから1300gまではかることができる。	☆ 重さの加法や減法を活用して、重さをつくることができる。 （タブレットPC・観察） ◎ タブレットPCで本時の学習を振り返り、次時の指導に生かす。
		7 学習の振り返りをする。	

授業者のこれまでの取組紹介 その2



6年竹組 田中 慎也 教諭

教科：社会

単元：長く続いた戦争と人々の暮らし

ご覧頂きたいポイント：

○授業支援ソフト効果的な利活用

○自分の意見や考えを短い言葉でまとめ、発表する。

取組経緯 状況把握・指導計画

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

状況把握

指導計画

1. カルテを確認する

カルテの確認か所

- ホーム(クロス分析) ■ 成績情報 ■ 行動・意欲集計
- アンケート項目一覧



2. カルテ確認からの「気付き」

クラスカルテからは、全体的に行動意欲も学力も高い傾向にある集団であるが、普段の学習の様子からは個々の考え方に固執したり、現状に満足したりする児童が多く、グループで多様な意見をいかしながら、考えを深めたり広げたりしようとする児童が少ない。

ペアやグループでの活動を通して、友達の意見や考えをもとに自分の考えをまとめる活動を積み重ねていく必要性を感じる。



3. 「気付き」から実践に向けた仮説を立てる

課題に対して、自分の考えをもてるようにヒント（ポイント）を示す。それを基に自分の考えをもち、グループで意見交換をし再考させることによって、友達の意見をいかして考えを深めることができるのではないかな。

4. 仮説に基づいた目標設定（伸ばしたい力）【クラス】

5 自分の勉強のしかたをふり返り、よりよい方法を考えて学んでいる。

【選択理由】

学習の定着度こそよい結果であるが、学習の様子からは“よりよい”解決法等を模索しようとする児童が少ないという実感である。

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり、広げたりしている。

【選択理由】

アンケートにより、最も否定的な意見が多かった項目である。普段の授業でも、自分の考えに自信がもてず、**グループ学習では一部の児童の考えを重視して、多様な考え方に触れることができていない。**

➡ **改善ポイント①**

13 友だちの意見や集めた情報を組み合わせて、自分の考えをまとめるようにしている。

【選択理由】

アンケート結果によると、否定的な回答をした児童の割合が比較的高い。**情報の効果的な活用の仕方が十分に身に付いている児童が少ない。**

➡ **改善ポイント②**

取組経緯 状況把握・指導計画



4.仮説に基づいた目標設定（伸ばしたい力）【個人】

児童A 対話力：自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えるようにしている

【選択理由】

課題の把握や発問に対する理解などが十分ではない。学習習慣も定着していない。まずは、主体的に学習に向かうことが課題である。その中で、自分の考えをもち、表現（記述）することが目標である。

児童B 協働力：グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり、広げたりしている

【選択理由】

算数科に対する学習意欲は高いが、他教科については波がある。自分の考えをしっかりとつことはできているが、表現が苦手である。記述できたことを基に、意見交換できるよう支援の仕方を考えたい。

取組経緯 授業実践・振り返り

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

授業実践

振り返り

授業改善ポイント 1-1

【目標に対する改善ポイント①】
ムーブノートで友だちの良い意見を見ることが、より高いものに練り上げられるであろう。

英語の授業で実践

実践による気づき 1

【改善ポイント①に対する気づき】
普段英語が苦手な挙手しない児童（A君）が、挙手した。同世代の子どもの意見（体験留学生）をムーブノートで見たり、英語を授業中話すことで励まされたからだと思われる。ムーブノート内に自分と同じ意見があるので、安心して発言できた。しかし、教師の意図する答えとは違っていたが、それ故にたくさんの児童が自分の間違いに気づくことができた。

授業改善ポイント 1-2

【目標に対する改善ポイント①】
・俳句を作りかえる課題に対して、自分の考えをもてるようにヒント（5つのポイント）を示す。
・自分の考えをグループで共有する中で、ポイントに沿った表現になっているかどうかについて意見交換をし再考させる。

国語の授業で実践

実践による気づき 2

【改善ポイント①に対する気づき】
俳句づくりのポイントを常掲しておけば、それを手掛かりにより課題解決がしやすかったのではないかと。

授業改善ポイント1-3

【目標に対する改善ポイント①】
・図から気付いたことを全体で共有した上で、課題解決に向かわせる。
・自分の考えに対する理由や根拠を短い言葉で簡潔にまとめる。

社会の授業で実践

授業改善ポイント 2

【目標に対する改善ポイント②】
・ヒントカードを2種類準備し、必要な児童に配布する。
・自分の考えを説明する際に「まず」「次に」「最後に」など順番を表す言葉を使わせる。

算数の授業で実践

取組経緯 指導改善～次サイクル指導計画

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

指導改善

状況把握

指導計画

カルテの確認ポイント

カルテの確認か所

- ホーム(クロス分析) ■ 成績情報 ■ 行動・意欲集計
- アンケート項目一覧



サイクルを通じた気づきポイント

・クラスの重点目標項目（12、13）について、それぞれ0.3ポイント上昇した。また、目標項目21「グループやクラスの話し合いでは、自分の考えや意見を積極的に出している」は、0.4ポイント上昇した。ペアやグループでの学習の成果を感じた。

・ターゲット児童Bについては、グループでの活動を通して自分の意見を深めたり、まとめたりできたという肯定的な結果が現れた。児童Aについては、自分の考えを伝えたという実感がまだ十分でないという結果であった。課題をより明確に、また実態に応じたヒントを提示していく必要がある。

仮説に対する実践結果

【仮説に対する実践結果、気付いたことなど】

・自分の考えを表現するためには、個々に応じたレベルのヒントを複数提示する必要性を感じた。

・グループでの意見交換では、話合いの話型を提示して流れを身に付けさせる必要がある。また、グループの意見を発表する際は、発表者が固定しないように配慮する。

・友達の意見を聞いて、自分の考えを深められる時間の確保が重要である。

取組経緯 指導改善～次サイクル指導計画

3rdサイクル (2019.04～07)

4thサイクル (2019.09～11)

Research

Plan

Do

Check

Action

Research

Plan

Do

指導改善

状況把握

指導計画

次期サイクルでの目標【クラス】

5 自分の勉強のしかたをふり返り、よりよい方法を考えて学んでいる。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

ペアやグループでの学習を意図的に設定することで、多様な考え方に触れさせることができた。既習事項や友達の考えを通して、学習方法を比較し場に応じたよさを選択できるようにさせたい。

12 グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり広げたりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

クラスの最重点目標として設定し実践したため、成果を感じられた。今後、表現の仕方や話し合いの進め方などについても指導を繰り返し、**自分の考えに自信をもって学習に臨めるようにしたい。**

13 友だちの意見や集めた情報を組み合わせて、自分の考えをまとめるようにしている。

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

課題の難度を下げて提示したため、どの子も自分の力で考えをまとめてグループ学習に臨めた。課題の難易度や与え方を工夫し、自分の力だけでは解決できない課題にも挑戦させていく。

➡ 授業デザインへ反映

次期サイクルでの目標【個人】

児童A 対話力：自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えるようにしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

自分の考えをもち、主体的に学習に参加できるように、導入の仕方を工夫したりヒントカードを提示したりした。ノートやタブレットPCにも自分の意見や考えを表現することができるようになってきた。情報発信の場においても相手を意識して伝えられるように話型の提示などの支援を考えたい。(2.0→2.0)

児童B 協働力：グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり、広げたりしている

【振り返り、次期サイクルへ向けた課題等】

グループの友達と意見が異なっていた場合にも、全体の場合で意図的に取り上げて本人の考えを認めたり、また、そう考えた理由や根拠を発表させたりして、自信をもって学習に臨めるようになった。自分の意見を大切にしつつ、友達の考えの中にも気付きがあるような活動にも意欲的に取り組ませていきたい。(1.0→3.0)

本日の授業デザイン

6年	社会科	単元名	長く続いた戦争と人々の暮らし	6/8	壬生川小学校 田中 慎也
----	-----	-----	----------------	-----	-----------------

★ 単元のねらい

満州事変から日中戦争、第二次世界大戦までの戦争の背景と経過、国民や戦場となった地域の人々の生活の様子から戦争の実態を知り、平和の意義について考える。

☆ 本時のねらい

戦争中の国民生活に関心を持ち、各種資料から人々はどのような思いで生活していたのかについて考えることができる。

○「学びあい学習」におけるICT活用のポイント

資料から読み取ったことを基に自分の考えをタブレットPCに書き、グループや全体で共有し、自分の考えを広げたり理解を深めたりする。

●「学びあい学習」のポイント

資料から読み取った思いや考えを、短い言葉で友達と共有して気付きを広げ、話型を用いてグループで考えをまとめられるよう工夫する。

◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）

⑬想像力「友だちの意見や集めた情報を組み合わせ、自分の考えをまとめるようにしている。」

歴史的事実や当時の人々の思いを、各種資料を用いて正確に読み取り、自分の言葉でまとめる。

⑭協働力「グループやクラスのいろいろな意見をいかして考えを深めたり、広げたりしている。」

グループや全体で考えを共有することで多様な考えに触れ、自分の考えを見つめ直したり、深めたりする。

展開	時間	学習活動の流れ・予想される児童の反応（○）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	8分	1 学習問題をつかむ。 ・「ちいちゃんのかげおくり」 ・「一つの花」 ・「特攻隊員（植村真久大尉）の手紙」 学習問題 戦争中、人々はどのような思いで生活していたのだろう。	学習問題 戦争中、人々はどのような思いで生活していたのだろう。 ○ 戦時中の生活や人々の思いに意識を向けさせるために、電子黒板に資料を提示し、問題意識を高めることができるようにする。
	30分	2 <u>戦争中、人々がどのような思いで生活していたのかを、資料を活用して読み取る。</u> <小学生>…国民学校の時間割、集団疎開など ○ 寂しいな。家族に会いたい。 <学生（学徒）>…勤労働員、学徒出陣など ○ もっと勉強をしたいな。 <女性（女子生徒）>…勤労働員、軍事教練など ○ 自分も頑張るしかない。 <衣食住>…標語、配給制など ○ 自分だけわがままを言えない。 3 <u>読み取ったことを基にグループで考えをまとめ、全体で共有する。</u> ○（ ）について、○○の資料から～～なことを考えながら生活していたことが分かりました。	○ テーマに関連した資料を閲覧できる場を設定する。 ○ 必要な情報を正確に読み読み取れるように提示の仕方を工夫する。 ● 資料を閲覧する際には、 <u>読み取った思いを短い言葉で友達と共有し、気付きを広げる。</u> ◎ 人々がどのような思いで生活していたのか、タブレットPCに話型を用いてまとめ、電子黒板で共有する
解決	7分	4 友達の発表を基に、自分の思いを表出させる。 ○ 学校が楽しくなくて、毎日が嫌だったと思う。 ゴール 国民生活のすべてが戦争に注がれ、人々は不安や不満を募らせながらも、自分たちができることに精一杯立ち向かっていた。 5 戦争に行ったお父さん（植村大尉）に返事を書く。	☆戦争中の人々の生活について、資料を効果的に活用して調べ、人々がどのような思いで生活していたのかについて理解を深めている。 （ムーブノート、発表）

appendix

壬生川小学校_カルテからの気付き

・タブレットを自分で考えながら工夫して活用したり、友達の意見を自分の意見に取り入れながら発表したりすることは、児童の中でできるようになってきたと感じているようである。しかし、課題解決能力や自分で考えた意見を個人で発表するのは、課題が残る。

他者から得た考えや情報を、自分で処理したり生かしたりする力が必要だと感じた。

・行動・意欲は全体的にみると上がっているが、「主体的」の項目だけ変化がなかった。

クラスの重点目標項目（12、13）について、ペアやグループでの学習の成果を感じた。

ターゲット児童Bについては、グループでの活動を通して自分の意見を深めたり、まとめたりできたという肯定的な結果が現れた。児童Aについては、自分の考えを伝えたという実感がまだ十分でないという結果であった。課題をより明確に、また実態に応じたヒントを提示していく必要がある。

・全体的に評価が悪くなっている。
・できていないと回答している児童は、概ね教師側の見取りと合っている。

日々の様子からも友達のことを取り入れる児童が増えたように感じられる。

クラスの意欲・行動に関しては、全体的に少し増えており、学年平均も上回っていた。主体力の理由を説明する項目では、とてもあてはまる児童の割合が2倍になっていたが、まったくあてはまらない児童の割合も2倍になっており、課題が残った。

壬生川小学校_授業実践後の気付き

場所の説明を考える活動を通してその場所を選んだ理由についても考えるきっかけになった。

- ・自分の考えを表現するためには、個々に応じたレベルのヒントを複数提示する必要性を感じた。

- ・グループでの意見交換では、話合いの話型を提示して流れを身に付けさせる必要がある。また、グループの意見を発表する際は、発表者が固定しないように配慮する。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを深められる時間の確保が重要である。

話型があると理由を説明しやすくなる児童が増えた一方、話型があっても理由を説明するのに抵抗のある児童も一定数いる。

- ・文字の入力に時間がかかり、練り合う時間の確保が難しかった。

- ・話型や話合い練習を重ねることで、中心になる児童が育ってきた。今後は、掲示物等工夫してより多くの児童が話す力を高められるようにしていく。
- ・ICT機器は児童の学習意欲を容易に高めることができる。

- ・考えをまとめるにあたって、語彙力の少なさがまとめる力には必要だと感じた。

- ・いつも決まった話型を提示し、発表の仕方を固定化させることから始めようと思った。

- ・タブレットP Cを活用したほうが、自分で多くのことを考えようとする児童が多いように感じた。

- ・あらゆる学習場面でタブレットを活用して考えやまとめたことをクラスに伝えており、表現する力も少しずつ身に付いている様子がうかがえる。

自分の意見や、友達同士の意見を比較することで、多面的・多角的に視野が広がると感じた。